



第2弾・工房

イタリアの名門

CARACENI

(カラチェニ)

ローマ本店を独占取材

昨年、トミー&ジュリオ カラチェニ (ローマ本店)を独占取材したが、今回は工房に入り、裁断の実演を写真取材することができた。聞きたいことは用意していたが、テクニックについての説明は、企業秘密に触れることになるためか、写真説明の形で掲載することになった。なお、取材に協力してくれたのは、MARIO DI TELLAさん (マリオ ディ テッラ)、GIANCARLO TONINIさん (ジャンカルロ トニーニ)、ANDREA CARACENIさん (アンドレア カラチェニ)。(文・写真=JUNKO MORI)



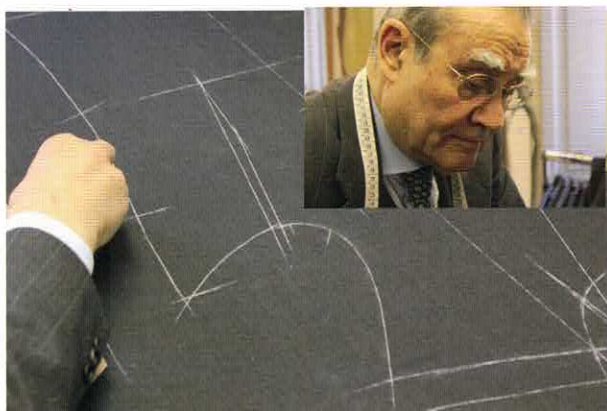
本邦初公開

写真に見る

カラチェニの裁断



海外トピックス（ローマ・カラチェニ）



上着のチャコ入れ（ジャンカルロ トニーニ氏）



パンツのチャコ入れ



裁断



ベスト



芯作り



芯据え

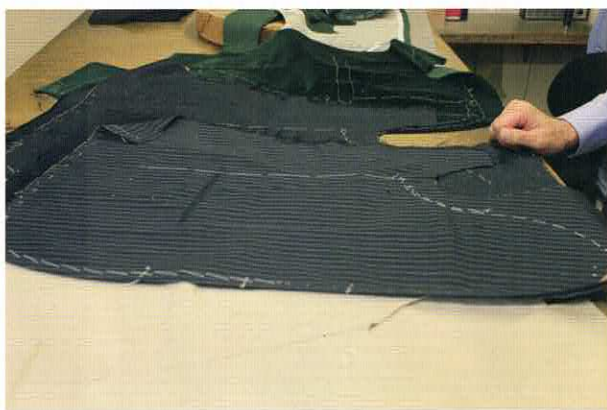


衿ころし

海外トピックス（ローマ・カラチェニ）



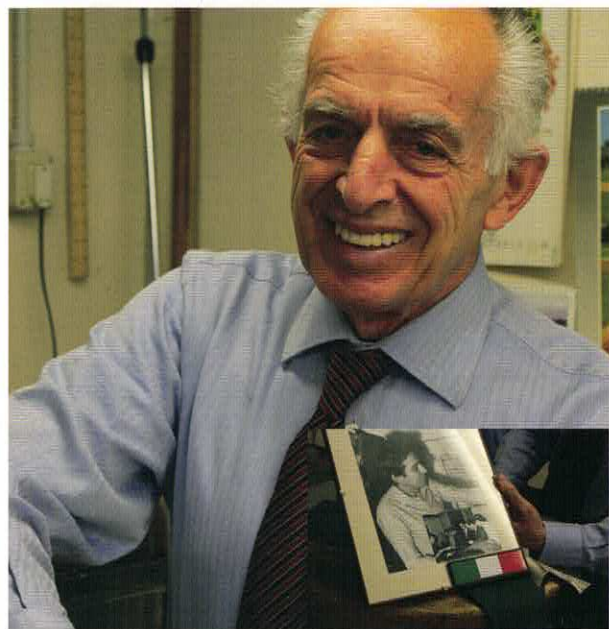
脇のクセ取り



裏の裁ち合わせ



前身



マリオ ディ テッラ氏（右下は 20 歳の時の写真）



脇合わせ



上衿の芯切り



上衿合わせ（左）、上衿の芯切り（アンドレア カラチェニ氏＝カラチェニの直系）

【カラチェニ】

ローマ本店の現在の住所＝VIA CAMPANIA 61/B

1900年代のはじめ、ドメニコ・カラチェニ（1880－1940）が15歳のとき、多くのアブルッツォの仕立て職人と同じように、ローマへ移り住む。すでに、裁断から縫製までを身につけていた彼は、数年のうちに名店の裁断士にまで出世し、成功を収めた。彼の独立は、戦争によって多大な影響を受けることになったが、1926年には、ローマのボンコンパーニ通り21に本店を構えた。その後、評判が高まり、ナポリ、ミラノ、パリに支店を出した。最盛期に顧客として名を連ねたのは、世界的に有名な貴族、財界や芸術、映画などに関わる著名人だった。

ドメニコは、兄弟のアウグスト、ガリヤーノを呼び寄せ、アウグストはパリ、ガリヤーノはナポリの店を受け持った。しかしながら、またしても戦争の影響を受け、アウグストは帰国し、ナポリのガリヤーノもローマに戻った。戦後、アウグストはミラノへ移り、現在のA・カラチェニへと続いている。ガリヤーノの息子たち、



上衿セット

（写真の無断使用厳禁）

トミーとジュリオの名を冠した仕立屋が、現在の「ローマのカラチェニ」である。ガリヤーノは息子たちに、アカデミアでの裁断の授業、ポルテス・ポール、ジェノヴァのエヴァンジェリスタでの実習、ロンドンで1年間、ヘンリー・ブール、キルガー、フレンチ&スタンバリー、ジョン・デーヴィスなどで研修をさせた。トミーとジュリオはドメニコが確立したスタイルを革新しながら、伝統を継承している。